

厚生労働科学研究費補助金【エイズ対策政策研究事業】
HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究
(分担)研究報告書

効果的な HIV 検査受検勧奨にかかる普及啓発の研究
(インターネットサイトの活用)

研究分担者 佐野 貴子 (神奈川県衛生研究所)
研究協力者 近藤真規子 (神奈川県衛生研究所)
土屋 菜歩 (東北大学 東北メディカル・メガバンク機構)
須藤 弘二 (株式会社ハナ・メディテック)
星野 慎二 (特定非営利活動法人 SHIP)
井戸田 一郎 (しらかば診療所)
清水 茂徳 (東日本国際大学)
生島 嗣 (特定非営利活動法人 ふれいす東京)
岩橋 恒太 (特定非営利活動法人 akta)
堅多 敦子 (東京都立駒込病院)
杉浦 太一 (株式会社 cinra)
今井 光信 (田園調布学園大学)
加藤 眞吾 (株式会社ハナ・メディテック)
市川 誠一 (人間環境大学)
白阪 琢磨 (独立行政法人国立病院機構大阪医療センター)
今村 顕史 (東京都立駒込病院)

研究要旨

HIV 検査情報の効果的な普及啓発手段の一つであるインターネットを活用して、保健所等 HIV 検査相談施設情報や HIV/エイズの基礎知識などを継続的に提供することにより、HIV/エイズの知識普及や理解促進、HIV 検査希望者への受検サポートを目的としたウェブサイト「HIV 検査・相談マップ」(<https://www.hivkensa.com>) の管理運営を行った。本サイトの情報提供効果を調査するため、アクセスアナライザーで利用状況の解析を行うとともに、保健所等 HIV 検査担当者へのアンケート調査を行った。また、2020 年以降、新型コロナウイルス感染症の流行により保健所等 HIV 検査事業の中止・縮小が継続していることから、事業の縮小に伴う影響等を調査した。

2022 年の年間サイトアクセス数は 112 万件であり、前年と比較して 8% の増加となった。その要因としては、新型コロナウイルス感染症の流行が 2022 年も続いたが、3 月にまん延防止等重点措置が終了となり行動制限が緩和されたこと、また、梅毒感染者数の急増により、梅毒関連報道が増加したことから、当サイトの閲覧数が増加したと考えられた。2022 年の保健所等 HIV 検査の中止・縮小割合は、感染流行の第 7 波の収束および全数把握の見直しにより、10 月以降は自治体数で 25%、施設数で 14% にまで低下し、HIV 検査事業の再開が進んでいると思われた。

当サイトへのアクセス方法は検索エンジン経由が 87%、直接アクセスが 9% であった。2022 年に検索エンジンから当サイトにアクセスする際に多く使用された検索用語は、「性病 症状」、「HIV」、「エイズ」、「梅毒」、「HIV 検査」の順で、これらの用語での検索エンジンでの平均掲載順位は 1.1~6.8 であった。サイトコンテンツのページビュー数は「これって、性感染症?」、「HIV・エイズって何?」、「トップページ」、「梅毒って、なに?」の順で多く、梅毒関連報道の増加に伴い性感染症情報ページの閲覧数

も増加したと思われた。

保健所等への HIV 検査相談に関するアンケート調査では、当サイトを閲覧したことがある担当者は保健所で 90%、特設検査施設で 100%、新型コロナウイルス感染症による HIV 検査日程の変更・中止について当サイトに修正依頼をした担当者は保健所で 21%、特設検査施設で 59%、当サイトが HIV 検査相談事業に役立っていると回答した担当者は保健所で 63%、特設検査施設で 88%であった。保健所担当者は当サイトを閲覧したことはあるが、新型コロナウイルス感染症対応による HIV 検査の中止・縮小等により、当サイトの HIV 検査相談事業への役割が認識しづらかったと思われた。

2001年に HIV 検査研究班の公式サイトとして開設以来、2022年末までに合計 2,662 万件のアクセスがあった。当サイトは保健所等 HIV 検査相談施設の情報を多く掲載しており、自治体の HIV/エイズ情報サイト、日本赤十字社の献血者への配布文書、NPO・民間企業等が作成する啓発用パンフレットなどで多方面に紹介され、行政的にも有効活用されている。今後も正確で信頼される HIV 検査情報を提供していくとともに、HIV/エイズの理解促進と、検査希望者の受検アクセス向上に寄与したい。

A.研究目的

インターネットを介して保健所等HIV検査相談施設の検査情報やHIV/エイズの基礎知識などを継続的に提供し、検査希望者への情報提供と受検サポート、HIV/エイズの理解促進を目的としたウェブサイト「HIV検査・相談マップ」

(<https://www.hivkensa.com>) の管理運営を行った。また、本サイトの情報提供効果を調査するため、アクセス解析や保健所等職員へのアンケート調査を行い、当サイトが有効利用されているかを評価した。2020年1月の新型コロナウイルス感染症流行以降、本年度も流行が継続しており、保健所等HIV検査の中止・縮小が続いたことから、検査の事業縮小に伴う影響等も調査した。

B.研究方法

1. 新規情報掲載、情報修正作業

保健所等HIV検査相談施設で実施されている常設検査の情報や不定期に実施される検査イベントの情報、また、HIV/エイズに関する基礎知識等について、ウェブサイト「HIV検査・相談マップ」に掲載し、情報提供を行った。

PCサイトは2001年9月、携帯電話サイトは2003年4月に開設し、2009年10月にはPCサイトおよび携帯電話サイトのリニューアル、2013年はスマートフォンサイトを開設し、2019年6月にはPCサイトとスマートフォンサイトについてトップページ操作性向上のためのレイアウト変更を行った。2021年3月にはサイトの全面リニューアルとして、コンテンツ管理システム（CMS）の変更および新規デザインの作成を行い、レスポンス対応のリニューアルサイトを公開するとともに、携帯電話サイトの運用を終了した。

定期更新作業としては、2023年3月に新年度の検査日程等の情報確認のため、自治体156箇所および医療機関47箇所に新年度情報確認依頼文書を送付し、3月中旬から修正作業を順次実施した。また通年の作業として、検査施設の新規掲載、掲載情報修正および検査イベント情報の掲載等を行った。

2. 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う自治体 HIV検査の実施状況調査

2020年1月に新型コロナウイルスの国内初感染事例の報告があり、感染拡大により2020年4月以

降、3回の緊急事態宣言が発令された。2022年も流行が継続し、3月にはまん延防止等重点措置が終了となり行動制限が緩和されたが、7月には第7波が生じて9月に収束、再び12月から第8波が生じた。サイト上に自治体HIV検査を受検する際の注意事項をポップアップで表示させるとともに、流行状況により変更されるHIV検査日程等をインターネット上の全国自治体サイトのHIV検査情報ページで閲覧調査し、随時情報修正作業を行った。また、検査中止または縮小の措置を行った自治体やHIV検査施設数の調査を行った。

3. サイト利用状況の調査 - Web解析 -

本サイトのアクセス解析には「Google Analytics」および「検索順位ツールGRC」を用いて、①サイトアクセス数（年別、月別、日別）、②情報端末別アクセス数、③新規・リピーター割合、④チャンネル別アクセス割合、⑤検索エンジン（Google）での検索クエリ別順位、⑥参照元からのアクセス数、⑦サイトコンテンツのページビュー数、⑧アクセス地域およびアクセス言語、⑨外国語ページのページビュー数を調査し、利用者の動向およびHIV/エイズ関連報道によるアクセス数の影響等を解析した。

4. サイト活用状況の解析 - アンケート調査 -

HIV検査・相談体制に関する調査（研究分担者土屋菜歩先生）において、保健所および特設検査施設のHIV検査担当者に対し、当サイトの利用状況やHIV検査相談事業への活用等に関するアンケート調査を実施した。

C.研究結果

1. 新規情報掲載、情報修正作業の状況

2022年は保健所等HIV検査相談施設661箇所の検査情報の掲載を行い、検査イベント情報依頼

113件、情報修正依頼285件の更新作業を行った（図1）。新規内容の掲載としては、2022年6月に抗体確認検査のウェスタンブロット法試薬の販売が終了となり、新しい抗体確認検査のイムノクロマト法試薬（Geenius HIV 1/2）が販売となったことから、その情報提供を行った。また、2022年の梅毒患者急増への対応として、トップページの「その他の性感染症について」の箇所に研究班で作成した梅毒啓発冊子「もしかして梅毒!？」のPDFの掲載を行った。

2. 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う自治体HIV検査の実施状況調査

新型コロナウイルス感染症拡大による保健所業務量の増加により、保健所・特設検査施設のHIV検査の中止が続いていることから、2020年4月よりサイト上に自治体HIV検査を受検する際の注意事項をポップアップで表示し、2023年3月時点も注意喚起を継続させた。また、流行状況により変更される自治体HIV検査日程等について、当サイトに掲載中の情報を随時修正するために、インターネットで公開されている全国自治体サイトのHIV検査情報を閲覧調査し、随時修正を行った。またその際、検査中止・縮小措置を行った自治体数を集計したところ、2022年でHIV検査を中止または縮小した自治体数での割合は、3月末時点で48%、5月末時点で37%、9月末時点で44%、12月末時点で25%であった。HIV検査施設数での割合は、3月末時点で25%、5月末時点で19%、9月末時点で26%、12月末時点で14%であった。3月末時点で自治体の中止・縮小割合が6割を超えていた東海ブロックと関東甲信越ブロックでは、4月に流行が収束した後、中止・縮小割合が一旦低下したが、7月からの第7波で再度、中止・縮小割合が高くなった。しかし、第7波の収束や9月26日からの全数届出の見直し

により、10月以降は低下に転じた。全国的にみても、10月以降は自治体数で25%、施設数で14%にまで低下した（図2-5）。

3. サイト利用状況の調査 - Web解析-

PCサイト、スマートフォンサイトおよび携帯電話サイトでの2001年からの合計アクセス数は約2,662万件となった（図6）。2022年の年間サイトアクセス数は112万件であり、前年と比較して8%の増加となった。情報端末別にみると、スマートフォンからのアクセス数が95万件であり、総アクセス数の85%を占めた（図7）。2022年の月別アクセス数は、1～6月は過去4年間の同月を下回り横ばいに推移したが、7月以降は2021年を上回り、2020年の同月のアクセス数にまで戻った（図8）。日別アクセス数では、7月8日に12,631件のアクセスがあり、「これって性感染症？」ページの閲覧数の増加が見られ、9月4～5日は一日あたり8,000件前後のアクセス数があり、「HIV・エイズって何？」ページの閲覧数の増加が見られた（図9）。訪問者別割合は、新規訪問者が89%、リピーターが11%であった（図10）。チャンネル別のアクセス割合では、検索エンジンからのアクセスが87%、直接アクセスが9%、他サイトからのアクセスが4%、SNSからのアクセスが0.4%であった（図11）。

検索エンジン（Google）における検索クエリ別の月別検索順位をみたところ、「HIV」では上半期（1～6月）で4～8位、下半期（7～12月）で1位、「エイズ」では上半期で4～11位、下半期で2位、「AIDS」では上半期で5～17位、下半期で4～5位、「性病」では、上半期で4～30位、下半期で4～5位、「梅毒」では上半期で15～52位、下半期で4～5位で推移した。「HIV」、「エイズ」、「AIDS」と「検査」の用語の組み合わせ、また、「HIV」と「test」の用語の組み合わせではすべ

て1位に表示された。「HIV」、「検査」、「キット」の用語の組み合わせでは、上半期で6～13位、下半期で5～7位であった（図12）。

検索エンジン（Google）での検索に用いられたクエリ別の順位を10位まで調査したところ、2022年に検索エンジンで当サイトを閲覧する際に一番多く使用された検索用語は「性病 症状」であり、以下、「HIV」、「エイズ」、「梅毒」、「HIV 検査」と続いた。これらの用語での検索エンジンでの平均掲載順位は1.1～6.8であった。また、10位以内の検索用語の平均掲載順位でも1.1～7.3であった（図13）。

参照元からのアクセス数を見たところ、Google検索からが最も多く約75万件、Yahoo! JAPAN検索からが約20万件、直接アクセスが約11万件であった（図14）。

サイトコンテンツのページビュー数の閲覧数は194万件で、一番よくみられたページは「これって、性感染症？」で約30万ページビュー、2位が「HIV・エイズって何？」ページで約24万ページビューであった（図15）。

検査・相談施設別ページビュー数では、「chot CAST（大阪検査相談・啓発・支援センター）」が最も多く、次いで「東京都新宿東口検査・相談室」、「神戸市保健所」、「札幌市中央保健センター」、「福岡市博多区保健福祉センター」と続いた（図16）。

当サイトへのアクセス地域は、日本からが88万人、米国3,078人、中国2,217人であった。アクセス言語では、日本語が87万人、英語が22,067人、中国語が4,715人であった（図17）。外国語ページ（英語、スペイン語、タイ語、タガログ語、ベトナム語、ポルトガル語、韓国語、中国語およびやさしい日本語）のページビュー数は、英語ページが4,751件、ベトナム語が2,023件、やさしい日本語が1,095件、中国語が892件であった（図18）。

4. サイト活用状況の解析 — アンケート調査 —
全国保健所および特設検査施設に対して実施した HIV 検査相談に関するアンケート調査において、当サイトの利用状況や HIV 検査相談事業への貢献度に関する質問を HIV/エイズ対策担当者に質問した。「当サイトを閲覧したことがあるか」の設問に対しては、「ある」との回答は保健所 90%、特設検査施設 100% (図 19)、「新型コロナウイルス感染症により HIV 検査日程が変更・中止になった際に当サイトに修正依頼を送ったか」の設問では、「はい」の回答は保健所 21%、特設検査施設 59% (図 20)、「当サイトが事業に役立っていると思うか」の設問では、「思う」の回答は保健所 63%、特設検査施設 88%であった (図 21)。

D. 考察

2022 年のサイトアクセス数は 112 万件であり、前年と比較して 8%の増加となった。その要因としては、2020 年 1 月以降の新型コロナウイルス感染症流行が 2022 年に入ってから継続したが、3 月にまん延防止等重点措置が終了となり行動制限が緩和されたこと、また、梅毒感染者数の急増により、梅毒関連報道が増加したことから、当サイトの閲覧数が増加したと考えられた。2022 年の保健所等 HIV 検査の中止・縮小割合は、感染流行の第 7 波の収束および全数把握の見直しにより、10 月以降は自治体数で 25%、施設数で 14%にまで低下した。

2022 年も新型コロナウイルス感染症対応による保健所業務量の増加により保健所等 HIV 検査の中止・縮小が続いた。4 月に流行が収束した後、中止・縮小割合が一旦低下したが、7 月からの第 7 波で再度、中止・縮小割合が高くなった。しかし、第 7 波の収束や 9 月 26 日からの全数届出の見直しにより、10 月以降は低下に転じた。全国的

にみても、10 月以降は自治体数で 25%、施設数で 14%にまで低下し、保健所等 HIV 検査の再開が見られた。2023 年 5 月 8 日から感染症法における新型コロナウイルス感染症の位置づけが 5 類に移行されるのに伴い、HIV 検査事業の再開状況がどのように推移するのか把握に努めたい。

情報端末別アクセス数では、スマートフォンからのアクセス数が 95 万件と総アクセス数の 85%を占めており、スマートフォンでの表示を主としたサイト構成が重要と思われた。

チャンネル別のアクセス割合では、検索エンジンからのアクセスが 87%、直接アクセスが 9%、他サイトからのアクセスが 4%、SNS からのアクセスが 0.4%であり、SNS からのアクセス割合が依然として少ないことが分かった。新サイト作成時に SNS で当サイト情報を共有してもらいやすいよう、シェアボタンの配置などを考慮したが、さらに利用しやすい方法を検討する必要がある。

2022 年に検索エンジンで当サイトを閲覧する際に一番多く使用された検索用語は「性病 症状」、「HIV」、「エイズ」、「梅毒」、「HIV 検査」であり、サイトコンテンツのページビュー数は「これって性感染症?」、「HIV・エイズって何?」、「トップページ」、「梅毒って、なに?」であった。2022 年は梅毒感染者数が急増して梅毒関連報道が多くなったことから、性感染症情報ページ閲覧数も増加したと思われた。

参照元からのアクセス数は検索サイトからがほとんどを占めたが、Twitter リンクからのアクセスも見られた。今後、SNS リンクからのアクセス数を増加させる方法を考えたい。

外国語ページのアクセス数は、2019 年はやさしい日本語 21,063 件・英語ページ 12,817 件・ベトナム語 2,389 件・中国語 2,367 件、2020 年はやさしい日本語 13,417 件・英語ページ 8,114 件・ベトナム語 1,816 件・中国語 1,504 件、2021 年

は英語ページ 5,307 年・やさしい日本語 3,605 件・ベトナム語 1,384 件・中国語 816 件、2022 年は英語ページ 4,751 件・ベトナム語 2,023 件・やさしい日本語 1,095 件・中国語 892 件であり、訪日外国人観光客の入国制限により閲覧数が減少していると思われた。2022 年 10 月 11 日に外国人の新規入国制限の見直しがあったことから、今後の動向を注視したい。

保健所等への HIV 検査相談に関するアンケート調査では、当サイトを閲覧したことがある担当者は保健所で 90%、特設検査施設で 100%、新型コロナウイルス感染症による HIV 検査日程の変更・中止について当サイトに修正依頼をした担当者は保健所で 21%、特設検査施設で 59%、当サイトが HIV 検査相談事業に役立っていると回答した担当者は保健所で 63%、特設検査施設で 88% であった。保健所担当者は当サイトを閲覧したことはあるが、新型コロナウイルス感染症対応による HIV 検査中止・縮小等により、当サイトの HIV 検査相談事業への役割が認識しづらかったと思われた。今後、保健所検査が再開した際の動向に注視したい。

当サイトは HIV 検査研究班の公式サイトとして 2001 年に開設し、2022 年末までに約 2,662 万件のアクセスがあった。全国の保健所等 HIV 検査相談施設の情報を提供するとともに、HIV/エイズ情報提供ページとしても機能している。また、当サイトは自治体の HIV/エイズ情報媒体、日本赤十字社の献血者への配布文書、啓発用パンフレット等、多方面で紹介され、行政的にも有効活用されている。今後も正確で最新の HIV 検査情報を提供していくとともに、更なる HIV/エイズ理解促進と、受検アクセスの向上に寄与していきたい。

E.結論

効果的な HIV 検査の普及啓発の一助として、ウェブサイト「HIV 検査・相談マップ」(<https://www.hivkensa.com>)を運営し、保健所等 HIV 検査相談施設の最新情報や HIV 検査に関する基礎知識等の情報を継続的に提供した。また、アクセス解析から、利用状況や閲覧ページの動向等を調査した。今年度も新型コロナウイルス感染症流行による保健所等 HIV 検査中止等の実施状況調査を行った。

2022 年のサイト訪問数は、約 112 万件であり、前年と比較して 8%の増加となった。その要因としては、2020 年 1 月以降の新型コロナウイルス感染症流行が 2022 年も継続したが、3 月にまん延防止等重点措置が終了となり行動制限が緩和されたこと、梅毒感染者数の急増により、梅毒関連報道が増加したことから、当サイトの閲覧数が増加したと考えられた。また、保健所等 HIV 検査の中止・縮小割合は、感染流行の第 7 波の収束や 9 月 26 日からの全数届出の見直しにより、10 月以降は低下し、HIV 検査相談事業の再開が進んだと思われた。

保健所等アンケート調査結果から、保健所 HIV 担当者は当サイトを見たことはあるが、新型コロナウイルス感染症対応による HIV 検査中止・縮小等により、当サイトの HIV 検査相談事業への役割が認識しづらかったと思われた。今後、保健所検査が再開した際の動向に注視したい。

(サイト URL・掲載情報転載依頼)

1. 医学書院『耳鼻咽喉科・頭頸部外科』編集室、総説「〈口腔・咽頭・唾液腺の検査〉 性感染症の検査」で「HIV 検査まめ知識」ページの〈HIV 感染とウイルスマーカー〉の図を掲載
2. NPO 法人ピルコン、啓発資料①緊急避妊薬の

- 啓発パンフレット、②性の健康教育教材キット・カード型教材、で当サイト URL を紹介
3. 国立国際医療研究センター国際医療協力局、冊子「日本ではたらくベトナム人のための健康ハンドブック」でベトナム語ページ（ベトナム語相談窓口）を紹介
 4. 株式会社童夢、KADOKAWA より出版の児童書『わたしの心と体を守る本』で当サイト URL を紹介
 5. 沖縄県中学校体育研究会、中学校保健「エイズの予防」学習資料において、「HIV・エイズって何？」ページの「11. 世界の状況」の図を転載
 6. 広島市医師会臨床検査センター、広報誌「臨床検査センターだより」において、「HIV 検査まめ知識」ページの「HIV 感染とウイルスマーカー」の図を掲載
 7. NPO 法人性暴力被害者支援センター・ひょうご、サイト「性暴力被害者のためのバーチャルワンストップ支援センター」に当サイト URL を紹介
 8. ギリアド・サイエンシズ社、冊子「HIV のこともっと知りたい」で当サイト URL を紹介
 9. 国立感染症研究所感染症危機管理研究センター、メディア対象のウェビナー（テーマ：HIV）で当サイトトップページのキャプチャ画像を使用
 10. 株式会社ネクイノ、スマルナアプリ（ピルのオンライン診察・処方）で「HIV・エイズって何？」ページの「HIV 感染からエイズ発症まで」の図を転載

F.健康危険情報

なし

G.研究発表

1. 論文発表

- 1) Minoru Kidokoro, Teiichiro Shiino, Tomohiro Yamaguchi, Eri Nariai, Hiroe Kodama, Keiko Nakata, Takako Sano, Keiko Gotou, Tomoko Kisu, Tomomi Maruyama, Yumani Kuba, Wakako Sakata, Teruaki Higashi, Naoko Kiyota, Takashi Sakai, Shunsuke Yahiro, Akira Nagita, Kaori Watanabe, Chika Hirokawa, Hirotsune Hamabata, Yoshiki Fujii, Miwako Yamamoto, Hajime Yokoi, Misako Sakamoto, Hiroyuki Saito, Chihiro Shibata, Machi Inada, Misako Fujitani, Hiroko Minagawa, Miyabi Ito, Akari Shima, Keiko Murano, Hiroshi Katoh, Fumihiko Kato, Makoto Takeda, Shigeru Suga and The Surveillance Team for Mumps Virus in Japan. Nationwide and long-term molecular epidemiologic study of mumps viruses that circulated in Japan between 1986 and 2017. *Front. Microbiol.* 13:728831. doi: 10.3389/fmicb.2022.728831

2. 学会発表

- 1) 佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、櫻木淳一、井戸田一郎、今井光信、加藤眞吾、今村顕史. COVID-19 流行下における民間臨床検査センターでの HIV 検査等の実施状況に関する調査. 第 36 回日本エイズ学会学術集会・総会、2022 年 11 月 18-20 日、浜松.
- 2) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、今村顕史、加藤眞吾. HIV 郵送検査に関する実態調査 (2021). 第 36 回日

本エイズ学会学術集会・総会、2022年11月18-20日、浜松.

- 3) 土屋菜歩、佐野貴子、城所敏英、根岸潤、堅多敦子、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤眞吾、大木幸子、生島嗣、今井光信、今村顕史. COVID-19 流行下での保健所・特設検査所における HIV 検査・相談実施状況と課題及び工夫. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会、2022年11月18-20日、浜松.
- 4) 近藤真規子、佐野貴子、須藤弘二、井戸田一朗、土屋菜歩、貞升健志、今井光信、加藤眞吾、櫻木淳一、中澤よう子、今村顕史. 新型コロナウイルス感染症流行禍の2年間(2020-2021年)における HIV 検査体制の実態. 第36回日本エイズ学会学術集会・総会、2022年11月18-20日、浜松.
- 5) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、今村顕史、加藤眞吾. 郵送検査における HIV 郵送検査と陽性数の推移. 日本性感染症学会第35回学術大会、2022年12月3-4日、北九州.
- 6) 鈴木理恵子、佐野貴子、日紫喜隆行. 新型コロナウイルス(SARS-CoV-2) Spike 領域の遺伝子解析による変異株検出について. 第81回日本公衆衛生学会、2022年10月7-9日、甲府.
- 7) 鈴木理恵子、佐野貴子、櫻木純一、多屋馨子、志村紀彰、大濱永史、石田彩子、片山公美、阿南弥生子. COVID-19 感染後の急性脳炎例からの SARS-CoV-2 検出について. 第90回神奈川県感染症医学会、2022年12月3日、横浜.

H.知的所有権の出願・登録状況(予定を含む)

なし

図1

サイト掲載の施設情報、検査イベント情報、
情報修正依頼件数

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
掲載・修正依頼	650	647	652	657	661
施設情報	149	145	46	69	113
検査イベント情報	403	420	344	351	285

図2 地域ブロック別の中止・縮小割合(自治体数)

地域ブロック	2022年			2021年			2022年			
	掲載自治体数	3月末時点	9月末時点	12月末時点	3月末時点	9月末時点	12月末時点	3月末時点	9月末時点	12月末時点
北海道	5	0%	60%	40%	20%	40%	20%	0%	20%	20%
東北	15	0%	27%	20%	53%	60%	40%	53%	47%	20%
関東甲信越 (うち1都3県)	56	31% (33%)	76% (91%)	49% (52%)	46% (52%)	50% (74%)	73% (43%)	61% (60%)	46% (45%)	55% (24%)
北陸	6	0%	33%	33%	17%	17%	33%	33%	17%	0%
東海	12	42%	92%	67%	54%	54%	77%	69%	54%	31%
近畿	24	17%	67%	33%	17%	42%	38%	33%	25%	25%
中国/四国	19	5%	42%	32%	21%	32%	16%	37%	32%	21%
九州/沖縄	18	33%	61%	50%	33%	17%	44%	39%	28%	22%
総計	154	21%	61%	42%	36%	38%	32%	48%	37%	25%

図3

地域ブロック別の中止・縮小割合(自治体数)

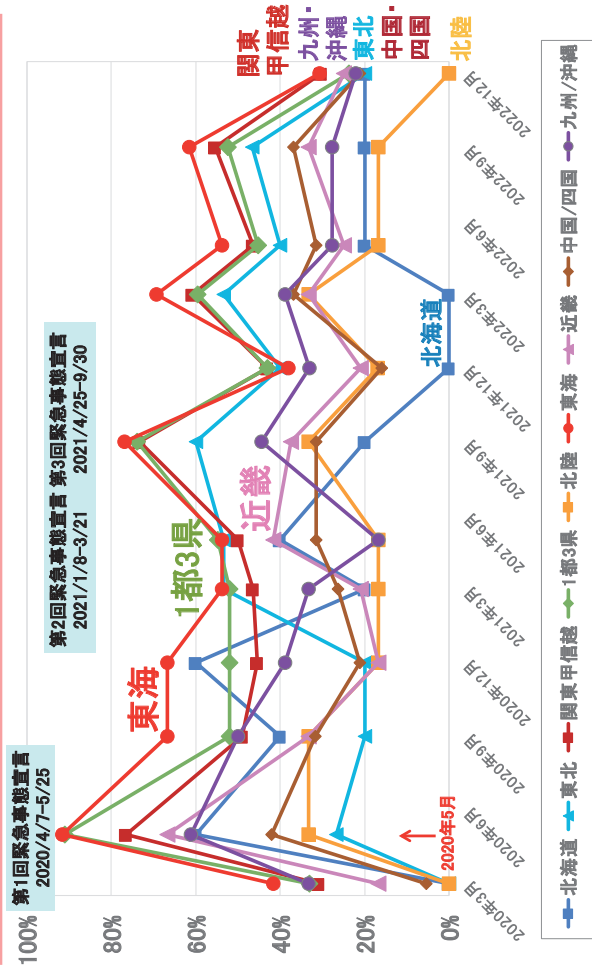


図4

地域ブロック別の中止・縮小割合(施設数)

地域ブロック	2022年			2021年			2022年			
	掲載施設数	3月末時点	9月末時点	12月末時点	3月末時点	9月末時点	12月末時点	3月末時点	9月末時点	12月末時点
北海道	40	0%	33%	30%	30%	30%	0%	3%	3%	3%
東北	58	0%	12%	10%	13%	29%	26%	19%	24%	17%
関東甲信越 (うち1都3県)	173	11% (13%)	44% (63%)	26% (33%)	22% (32%)	23% (33%)	25% (59%)	30% (34%)	28% (40%)	22% (26%)
北陸	22	0%	9%	9%	5%	5%	9%	9%	5%	0%
東海	59	10%	55%	38%	38%	12%	46%	8%	29%	7%
近畿	79	7%	40%	13%	5%	10%	15%	13%	9%	10%
中国・四国	73	1%	20%	13%	14%	9%	11%	8%	11%	7%
九州・沖縄	86	12%	29%	20%	21%	13%	8%	15%	16%	19%
総計	590	7%	33%	21%	19%	16%	22%	19%	19%	14%

図5 地域ブロック別の中止・縮小割合(施設数)

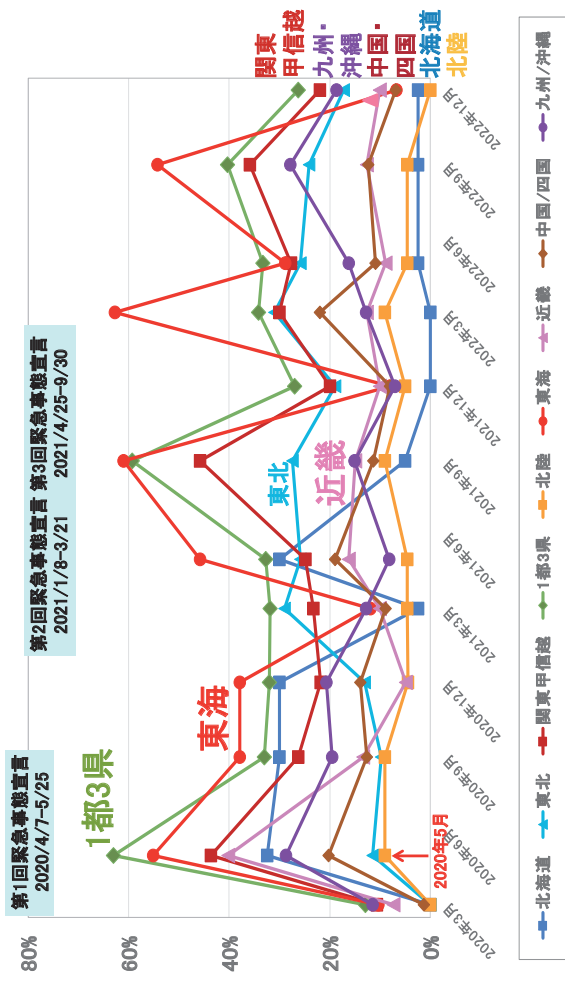


図6 サイトアクセス数 (2001年-2022年)

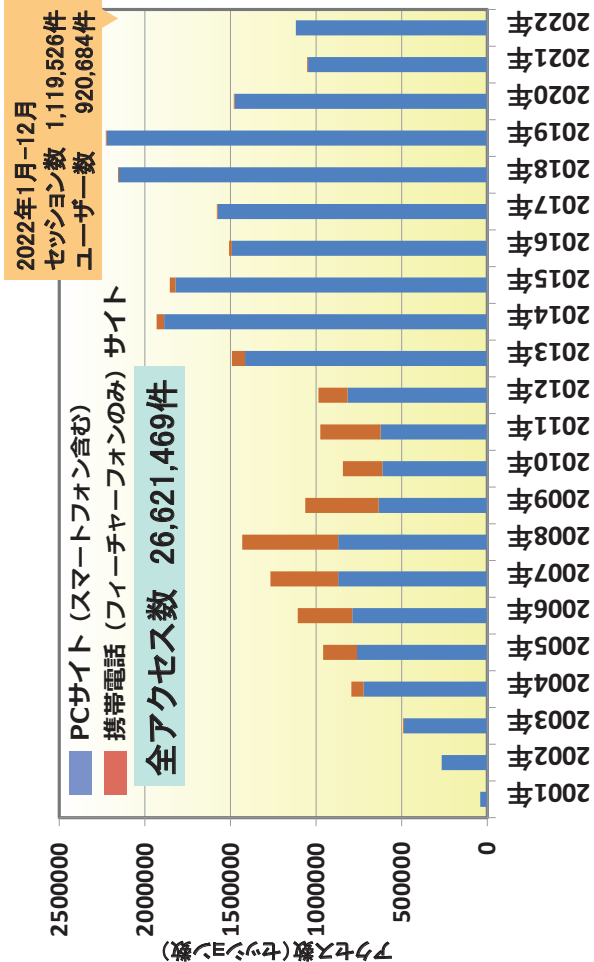


図7 情報端末別アクセス数の推移(2010年-2022年)

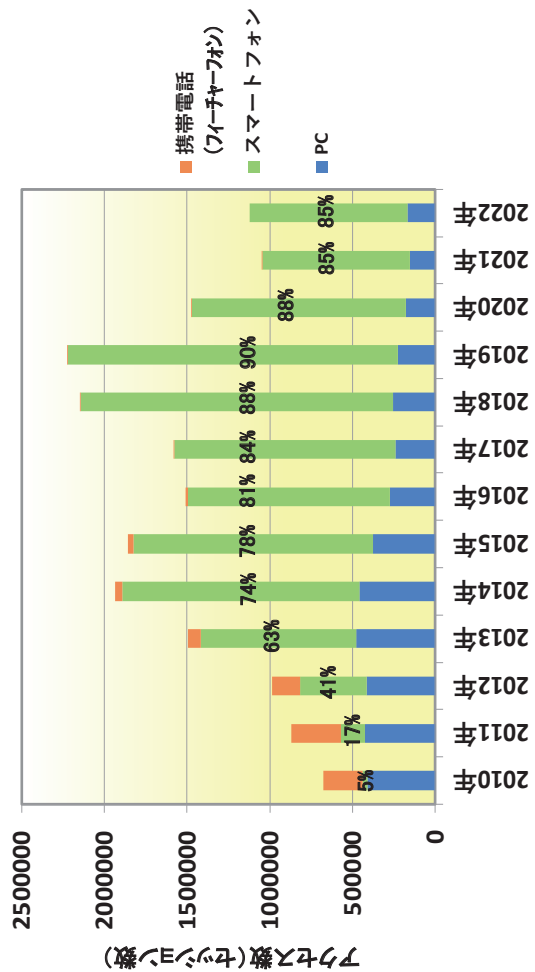


図8 月別アクセス数の推移 (2018年-2022年)

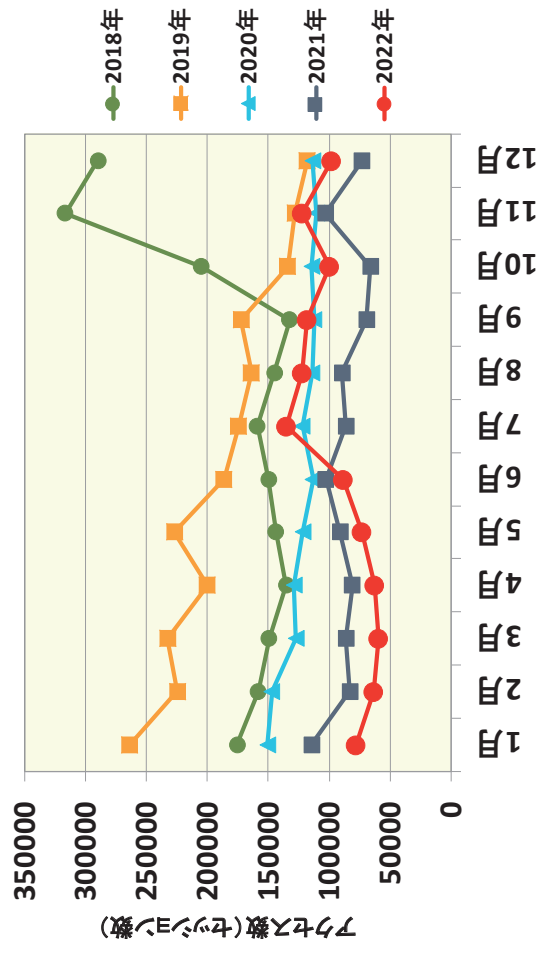


図9 日別アクセス数 (2020年-2022年)

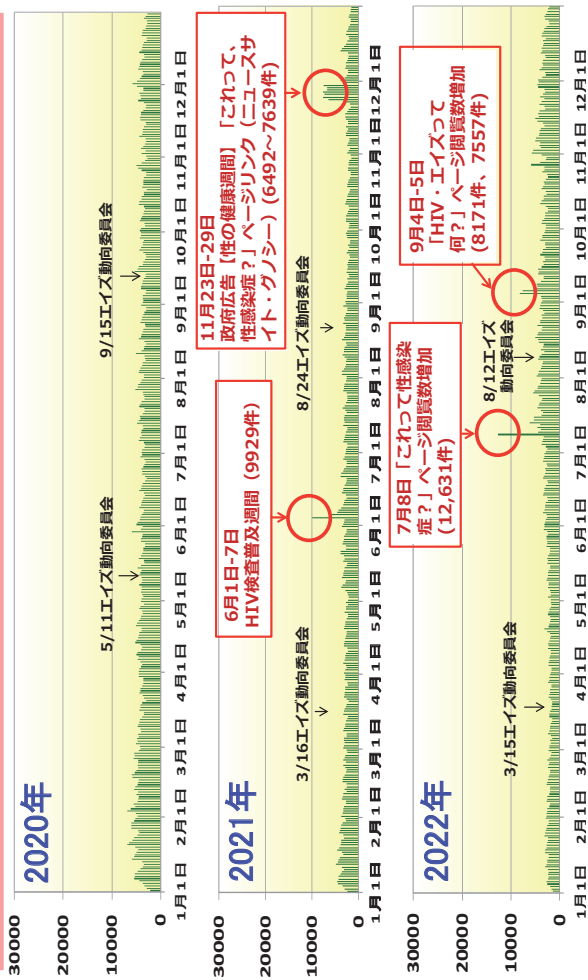


図11 チャネル別アクセス割合 (2022年)

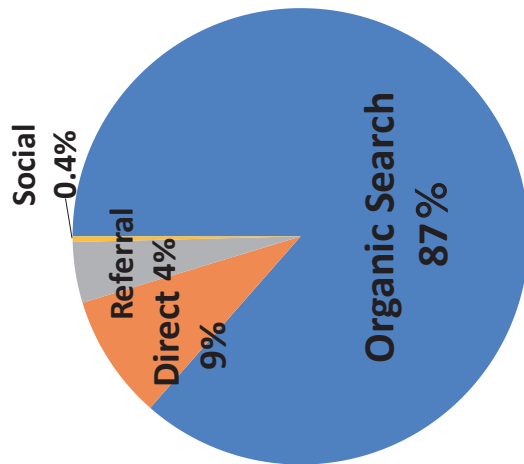


図10

訪問者別 (新規・リピーター) 割合 (2015年-2022年)

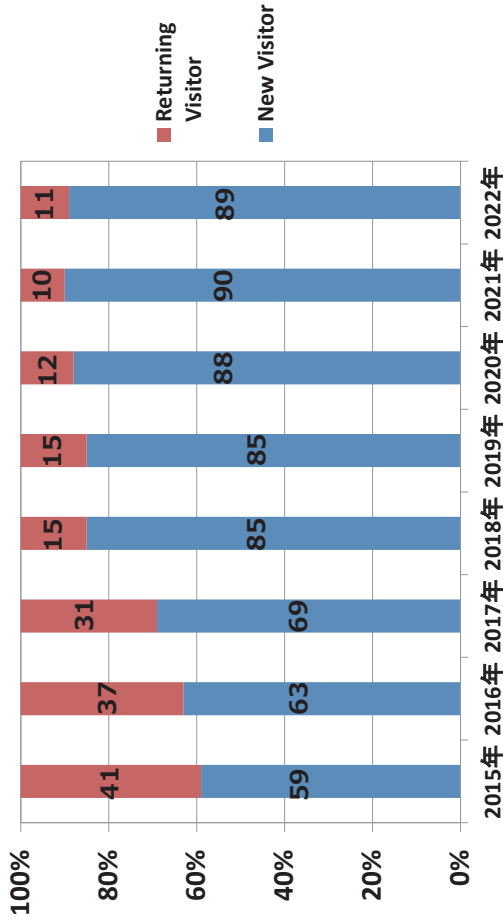


図12

検索エンジン 検索クエリ別月別検索順位 (Google)

検索クエリ	Google件数 (2023年1月)	2022年													
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
HIV	1,730,000,000	6	6	6	8	6	4	1	1	1	1	1	1	1	1
エイズ	6,940,000	11	11	11	10	8	4	2	2	2	2	2	2	2	2
AIDS	1,510,000,000	17	16	15	15	10	5	5	4	4	4	4	4	4	4
HIV 検査	3,090,000	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
エイズ 検査	2,040,000	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
HIV test	1,860,000,000	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
HIV 検査 キット	668,000	13	13	13	12	11	6	6	6	6	7	7	5	6	6
性病	23,500,000	28	30	23	29	5	4	4	4	4	4	5	5	5	5
梅毒	7,990,000	52	52	50	40	31	15	4	5	5	4	5	4	5	4

(PC版 検索順位チャエツクツールGRCで解析)

図13

検索エンジン 検索クエリ別順位 (Google)

(2022年)

順位	検索クエリ	クリック数	平均掲載順位
1	性病 症状	48,841	1.7
2	hiv	26,188	4.2
3	エイズ	15,994	5.0
4	梅毒	15,681	6.8
5	hiv 検査	13,881	1.1
6	hivとは	12,097	3.3
7	エイズとは	11,582	4.6
8	エイズ検査	7,669	1.2
9	hiv 感染率	6,254	2.0
10	梅毒 症状	5,859	7.3

図15

サイトコンテンツのページビュー数 (2022年)

ページビュー全体 1,942,103件

サイトコンテンツ	ページビュー数
1 これって、性感染症？	295,522
2 HIV・エイズって何？	241,539
3 トップページ	220,074
4 梅毒って、なに？	57,059
5 検査・相談施設を探す	54,604
6 HIV検査まとめ知識	50,423
7 HIV検査Q&A	39,220
8 東京都検査結果一覧	26,124
9 全国検査結果一覧	21,545
10 chotCAST (大阪検査相談・啓発・支援センター)	20,580

図14

参照元からのアクセス数 (2022年)

参照元	アクセス数
1 Google 検索	751,083
2 Yahoo! JAPAN 検索	199,515
3 Direct access	106,970
4 bing 検索	15,077
5 ドコモ 検索	14,365
6 au 検索	3,161
7 Twitter リンク	2,557
8 厚生労働省	1,738
9 東京都新宿東口検査・相談室	1,194
10 楽天 ウェブ検索	1,170
11 姫路市	1,136
12 HIVマップ	1,128

図16

検査・相談施設別ページビュー数 (2022年)

検査・相談施設	アクセス数
1 chotCAST(大阪検査相談・啓発・支援センター)火・木・土・日曜日検査	20,580
2 東京都新宿東口検査・相談室	11,065
3 神戸市保健所(検査会場:三宮センタープラザ西館6階)	7,919
4 札幌市中央保健センター	6,111
5 福岡市博多区保健福祉センター	5,556
6 八代保健所	4,442
7 さいたま市HIV即日検査	4,091
8 大阪市中央区保健福祉センター	3,859
9 宮崎県小林保健所	3,786
10 神奈川県HIV即日検査センター 休日検査	3,599
11 宮崎県高鍋保健所	3,512
12 加古川健康福祉事務所(加古川保健所)	3,209
13 千代田区千代田保健所	3,001
14 愛知県衣浦東部保健所	2,992
15 和歌山市保健所	2,941

図17

アクセス地域およびアクセス言語 (2022年)

アクセス国	ユーザー数	アクセス言語	ユーザー数
Japan	883,542	日本語	773,502
United States	3,078	日本語(日本)	95,099
China	2,217	英語(米国)	17,897
Thailand	1,136	中国語(簡体)	4,715
Indonesia	778	英語(英国)	2,788
Canada	645	ベトナム語	1,709
South Korea	607	英語	718
Vietnam	525	英語(オーストラリア)	664
France	499	韓国語	572
Australia	479	ポルトガル語(ブラジル)	535

図18

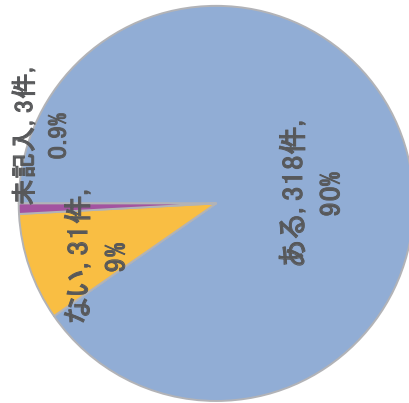
外国語ページのページビュー数 (2022年)

言語	ページビュー数
英語	4,751
スペイン語	133
タイ語	163
タガログ語	103
ベトナム語	2,023
ポルトガル語	377
韓国語	20
中国語	892
やさしい日本語	1,095

図19

ウェブサイト「HIV検査・相談マップ」を
ご覧になったことはありませんか？

(保健所352件中)



(特設検査施設17件中)

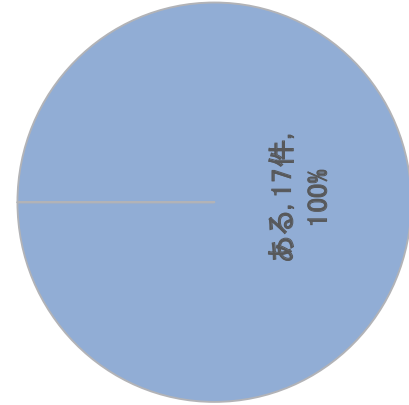
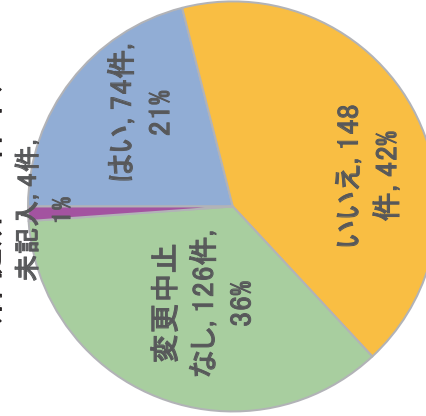


図20

COVID-19によりHIV検査日程が変更・中止に
なった際に当サイトに修正依頼を送りましたか？

(保健所352件中)



(特設検査施設17件中)

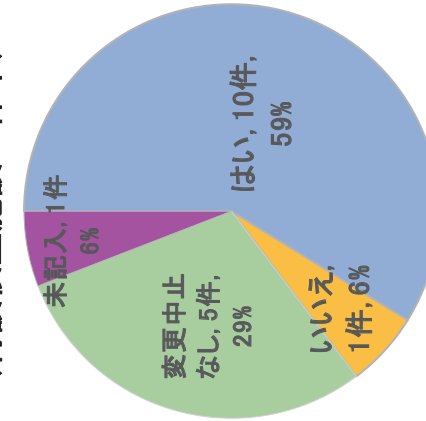


図21

(2022年)

「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に 役立っていると思いますか？

